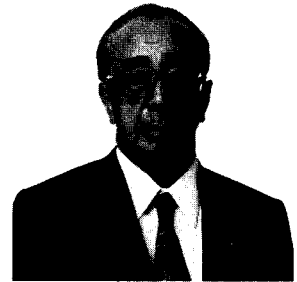


書店は知識のリゾートステーション

株式会社紀伊國屋書店 代表取締役社長 松原 治



人生は人との出会い、本との出会い、自然との出会いと教えられました。喜寿となりその感を一入深くします。

修証義に「人身得ること難し、仏法値うこと希なり。今我等宿善の助くるに依りて、已に受け難き人身を受けたるのみに非ず、遇い難き仏法に値い奉れり」と人に生れた有難さを諭されております。人と生れることができたので父母妻子孫に始まり、学友、戦友、社会においての友等、じつに多くの人に出会うことができ、今日の間人形成に大きい裨益を受け、人生を楽しめたことはまことに有難いことでもあります。

自然との出会いも人にとり人生の大きい部分を占めていると思います。在原業平は千百年の昔「世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」と詠んでおりますが、今日私たちの春に浮き立つ心と全く変わりありません。戦時中応召してゴビの砂漠で6ヶ月過しましたがよく夢見るものは松の緑でした。日本の自然と日本人との出会いをしみじみ感じさせられます。

本との出会いも、幼時母に絵本を読んでもらったのに始まり、じつに大きいものがあります。中学に入り、早速漱石の「坊ちゃん」を求め、こんなに面白い本があるのかと感激しました。本は人の書いたものでありますから、文字を通じての人との出会いとも言えるもので、古今に通じ聖賢に学び東西を遠しとしませんので、これまたわれわれに、じつに大きい感化を及ぼしております。私

は、たまたま人と本との出会いの場をつくることを職業として45年になります。いつしかこれを天職と考え、業界の後進にもかく教えて今日に至りました。

紀伊國屋書店の経営にたずさわった最初の15年間は、日本が壊滅的な戦災から立ち上がり、ようやく戦前の水準まで復興し得たときであり、戦時中10年の文化的空白をようやく埋めた時代でありました。当時、書店の効率的な適正規模は20坪と言われ、わが社の150坪は全国でも有数なものでありましたが、なにぶんにも廃墟から出発したわけで、経験、人材資本も貧弱でインフレは加速し、本のような、商品回転率がはなはだ遅く、そのうえ、多品種少量の典型である商品を扱いますと売れても仕入れが間に合わず、インフレで販売代金で次の仕入資金がまかなえず、資本の蓄積もままならず、儲からぬ商売に銀行の融資も充分には得られず、大変苦労しましたが、大変よい勉強になりました。顧客にも親しんでいただき、町の図書館を以て自ら任じておりました。

昭和39年春念願の本店ビルが竣工し、これまでの書店の概念を遙か超える500坪の売場（今は950坪）に顧客の求められる本をほぼ品揃えでき、1つの時代を画しました。

引き続いて渋谷、大阪梅田、札幌、岡山、広島、熊本、福岡、新潟、弘前と主要都市に35店を開店、昭和44年のサンフランシスコ店に始まりニューヨ

ーク店等北米8ヵ店、台湾4ヵ店、シンガポール4ヵ店、クアラルンプール2ヵ店、ジャカルタ、バンコックと20ヵ店、外に国内48営業所、海外2営業所を展開して国際化に対応し、広く国の内外に人と本との出会いの場をつくることができました。特に梅田店600坪（現在は850坪）は立地条件に大きく恵まれ年商140億円を超え世界一の評価を頂いております。

一方において電子・通信技術の急激な発達はここ15年間においてタイムリーに的確な情報の提供を可能にし、オンライン、オフラインの情報の発信がわが社の大きい仕事の1つになり売上の10%を占める日も近いと思われまます。

これに伴い国内海外のネットワークを結んで「新しい書店像」を追求し、そこでは最も身近で多彩な〈知遊学〉のリゾート空間に変ぼうした姿が見いだせます。知識や情報を確実に自分のものにする面白さ、考え想像する楽しさ、個性豊かな生き方にめぐり会えるすばらしさ——そこにはいつも本があり情報がある。今本物志向という時代の空気の中で紀伊國屋書店は「知識のリゾートステーション」に変ぼうしてきました。

よく「活字離れ」といわれますがジャンルによっては本という形態からの活字離れはあります。

これは電波メディアでリアルタイムに知ることのできる情報中心型のものに多く見られます。しかし本の本来の使命はやはり考えるてだてにあります。読むことによって考え、感じる、そこに楽しみがあります。知的な創造であり広い意味での遊びであります。特に日本語は象形文字ですからパターン認識がよく、イメージが浮かびやすく、思考の過程が楽しみやすく、眼光紙背に徹することもできます。

一般的に今の学生は勉強しないとか、軽薄短小の時代で、つぎつぎと移り変わるものにトレンドイについてゆくだけだといわれますが、今日社会は大変厳しい競争社会であることを彼らは敏感に認識しております。また、教える先生もしっかり準備をし本格的な講義をしないと学生が教室にきてくれなくなりますので、先生方も非常によく勉強されております。私も、紀伊國屋書店の総合職の入社試験で面接し専門以外の本をよく読んでいるのに感心させられます。また、知識を得るだけでなく、知識を獲得する方法をビデオ、CD-ROMあるいはオンラインで学ぶことも広く開発されてき、活用されていることも大変たのもしいことであります。

